

第79期 第2四半期
事業のご報告

2017年1月1日～2017年6月30日



Water Air
Ground

Ebara Jitsugyo CO.,LTD.

Contents

ごあいさつ	01
連結決算の概要	03
決算レポート セグメント	05
会社概要	06

ごあいさつ

株主の皆さまには、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに、第79期第2四半期（2017年1月1日～6月30日）事業の概況についてご報告申し上げます。

2017年上半期の環境装置機械業界は、公共分野では、上下水道関連施設の更新、改修、機能強化（遠隔監視等）、災害対策等の需要が増加しております。民間分野では、都市再開発案件等に活発な動きは見られますが、景気の先行きの不透明感を反映し、設備投資等に一部停滞感が見られます。

このような事業環境の下、当社グループは、企業価値の向上を目指し、以下の戦略に取り組んでおります。

<環境関連>

企業成長の重要な柱である環境関連事業の再構築を図るため、自社製品部門である環境事業本部に営業部門を取り込み、製販一体の組織体制とすることで、自社製品を核とした収益基盤の拡大を図ります。

<水処理関連>

西日本エリアでの営業基盤の確保を図るとともに、防災需要へのアプローチを強化します。また、技術者の育成、プロジェクト管理の徹底、集中購買の実施などにより継続的に原価低減を図ります。

<風水力冷熱機器等関連>

都市再開発、オリンピック需要などに対するアプローチを継続するとともに、多様化するニーズに対応し、取扱製品の拡充を図ります。

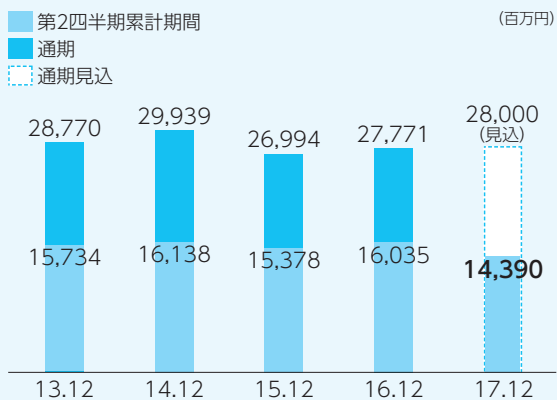


代表取締役会長 兼 社長
鈴木久司

財務ハイライト

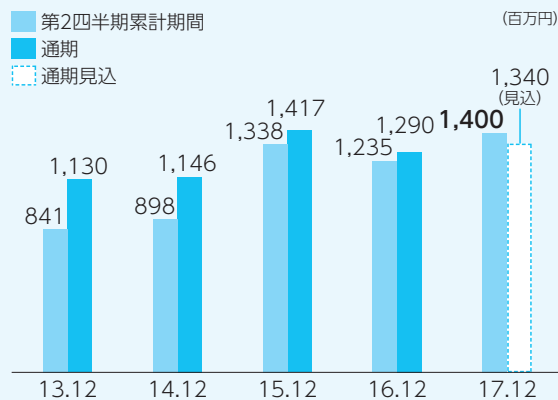
売上高

143億90百万円
(前年同期比 Δ 10.3%)



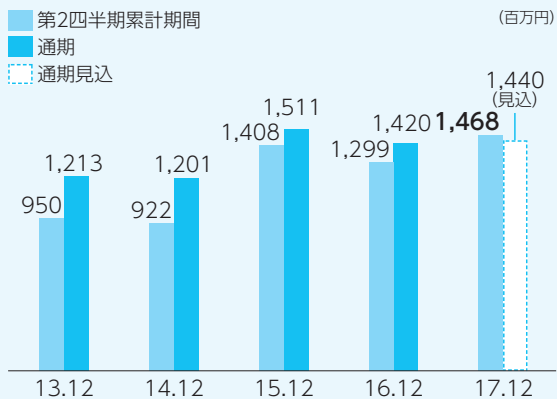
営業利益

14億00百万円
(前年同期比 +13.4%)

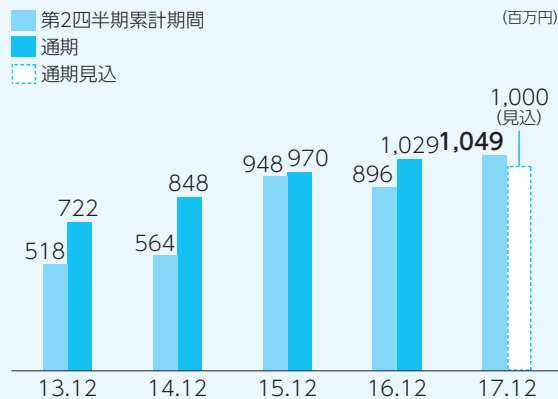


経常利益

14億68百万円
(前年同期比 +13.0%)



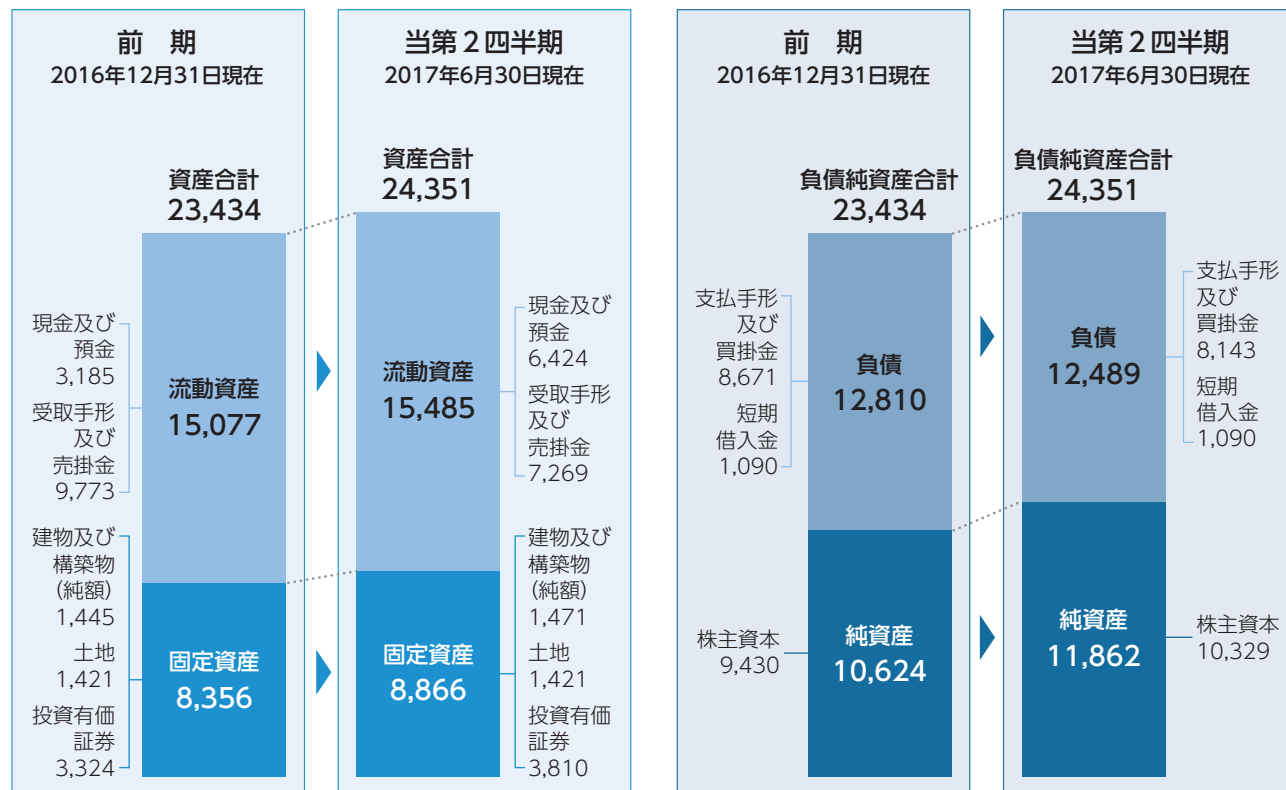
**親会社株主に帰属する
四半期(当期)純利益** **10億49百万円**
(前年同期比 +17.0%)



連結決算の概要

連結貸借対照表の概要

(単位：百万円)



Point 1 資産の変動

資産は前期末に比べ9億17百万円増加しました。主な要因は、現金及び預金の増加32億38百万円、受取手形及び売掛金の減少25億3百万円などです。

Point 2 負債の変動

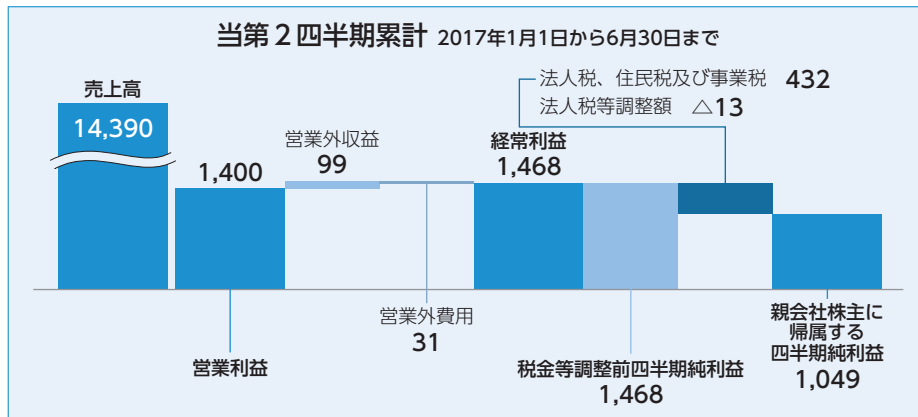
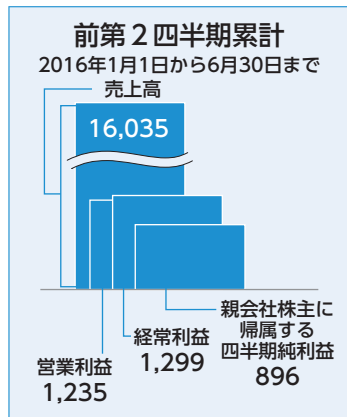
負債は前期末に比べ3億20百万円減少しました。主な要因は、支払手形及び買掛金の減少5億27百万円などです。

Point 3 純資産の変動

純資産は前期末に比べ12億38百万円増加しました。主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益10億49百万円の計上による増加、剰余金の配当1億50百万円による減少などです。

連結損益計算書の概要

(単位：百万円)



Point 4 売上高の動き

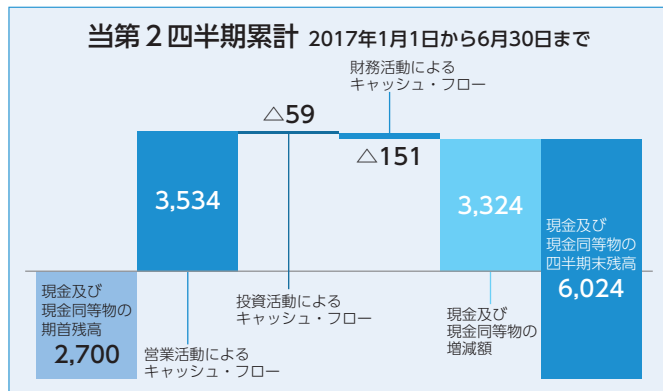
1億円以上の大型案件が前年同期に比べ減少したことに加え、水処理関連事業において工事進捗が遅れている物件もあり、売上高は減少しています。

Point 5 営業利益の動き

売上高は減少したものの粗利益の増加によって、営業利益は増加しています。粗利益の増加要因は、前期に発生した水処理関連事業の大型案件に係る工事損失がなくなったこと、採算性を重視した受注に努めたこと、全社を挙げての継続的な原価低減努力が実を結んだことなどが挙げられます。

連結キャッシュ・フロー計算書の概要

(単位：百万円)



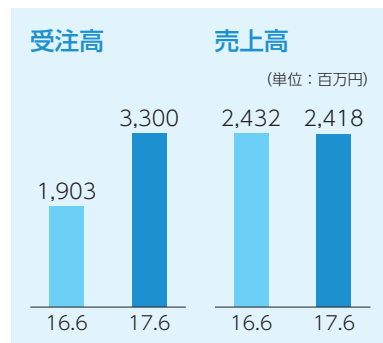
Point 6 キャッシュ・フローの状況

- 営業活動によるキャッシュ・フロー：
35億34百万円の獲得（前年同期は42億23百万円の獲得）。主な要因は、税金等調整前四半期純利益14億68百万円の計上、売上債権の減少25億3百万円、仕入債務の減少5億27百万円などです。
- 投資活動によるキャッシュ・フロー：
59百万円の使用（前年同期は3億3百万円の使用）。主な要因は、有形固定資産の取得による支出98百万円などです。
- 財務活動によるキャッシュ・フロー：
1億51百万円の使用（前年同期は1億95百万円の使用）。主な要因は、配当金の支払額1億50百万円などです。

決算レポート セグメント

環境関連事業

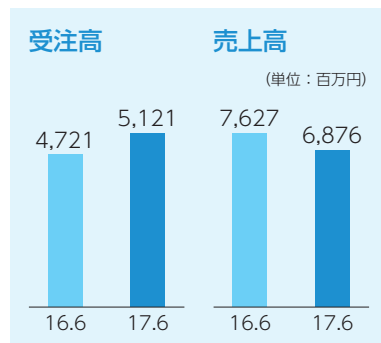
環境関連製品の製造・販売を手掛けるメーカー事業



受注高は、計測、省エネブロー、水処理プラント分野が前年同期比で大きく増加しました。売上高は、省エネブロー分野は増加したものの、脱臭、水処理プラント分野で工事案件が減少し、前年同期並みに留まりました。

水処理関連事業

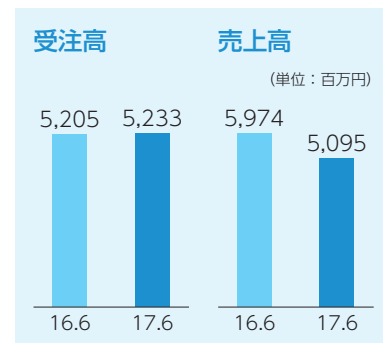
上下水道向けの設計・施工を手掛けるエンジニアリング事業



受注高は、上下水道関連施設の更新、改修案件を着実に受注した結果、前年同期比で増加しました。売上高は、工事進捗が遅れている物件の影響で減少しました。

風水力冷熱機器等関連事業

ポンプ・冷凍機・省エネ型空調機器などを販売する商社事業



受注高は、首都圏の再開発案件が引き続き堅調に推移したものの、民間設備投資に停滞感が見られ、前年同期比で微増となりました。売上高は、前期末の受注残高が少なかったことが影響し減少しました。

通期の見通し (2017年1月～12月)

受注高	285億円	(前期比 +10.5%)
売上高	280億円	(前期比 +0.8%)
営業利益	13.4億円	(前期比 +3.8%)
経常利益	14.4億円	(前期比 +1.4%)
親会社株主に帰属する当期純利益	10.0億円	(前期比 △2.9%)

会社概要

2017年6月30日現在

会社概要

商号	荏原実業株式会社
本社所在地	東京都中央区銀座七丁目14番1号
設立	1946年11月
資本金	1,001,406,250円
従業員数	524名
主な取引銀行	みずほ銀行 銀座通支店 三菱東京UFJ銀行 日本橋中央支店 三井住友信託銀行 芝営業部

役員

代表取締役会長 兼 社長	鈴木 久 司
取締役 副社長執行役員	佐藤 善 伸
取締役 専務執行役員	阿部 亨
取締役 (監査等委員)	中村 隆
社外取締役 (監査等委員)	平山 正 剛
社外取締役 (監査等委員)	松崎 信
社外取締役 (監査等委員)	橘 昇

株式の状況

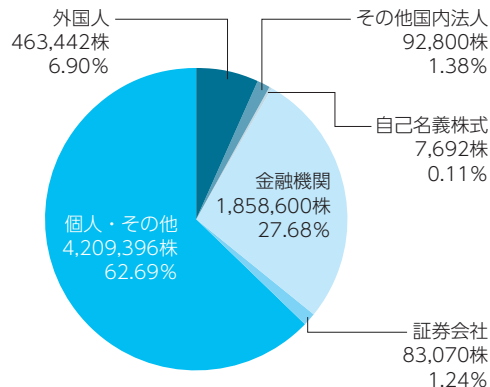
発行可能株式総数	20,000,000株
発行済株式の総数	6,715,000株
株主数	7,745名

大株主

株主名	持株数	持株比率
水島力夫	400,000株	5.96%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	305,200	4.55
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	300,400	4.47
株式会社みずほ銀行	265,000	3.95
東京海上日動火災保険株式会社	150,000	2.23
三井住友信託銀行株式会社	150,000	2.23
日本生命保険相互会社	136,000	2.02
第一生命保険株式会社	135,000	2.01
清水やす子	133,820	1.99
荏原実業社員持株会	132,600	1.97

(注) 持株比率は自己株式(7,692株)を控除して計算しています。

所有者別株式数分布状況



株主メモ

事業年度	1月1日から12月31日まで
定時株主総会	3月下旬
基準日	定時株主総会・期末配当 12月31日 中間配当 6月30日
公告方法	電子公告とします。 掲載URL http://www.ejk.co.jp 但し、やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
株主名簿管理人	〒100-8233 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル) 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店及び全国各支店で行っています。

住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。

なお、証券会社に口座がないため株券電子化制度により特別口座が開設された株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

未払配当金のお支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

「配当金計算書」について

配当金支払いの際送付している「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払い通知書」を兼ねています。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。

なお、配当金領収証にて配当金をお受取りの株主様につきましても、配当支払いの都度「配当金計算書」を同封させていただいております。

※確定申告をなされる株主様は、大切に保管ください。

荏原実業株式会社
東京都中央区銀座七丁目14番1号 03-5565-2881 <http://www.ejk.co.jp>
証券コード(東1) 6328

